

ふじさわ宿交流館

藤沢宿は、江戸時代には旧東海道の宿場町として、大山詣や江の島詣をする人々の交通の要衝としてにぎわいました。ふじさわ宿交流館は、藤沢の歴史や文化に触れ、人々が交流できる場として平成28年(2016年)に開館しました。



とうかいどうごじゅうさんつぎのうち ふじさわ ほうえいどうぼん
東海道五十三次之内 藤沢 (保永堂版)

作者 歌川広重

藤沢宿にあった江の島一ノ鳥居を遊行寺を背景にして描いたもので、鳥居の後ろに架かる橋は大鋸橋(現遊行寺橋)。大山詣、江の島詣をする人で賑わいました。



1階

2階

多目的ホール・広場

歴史散策やウォーキングの際に休憩できます。講演やワークショップなどの催しを開催します。

広場

出入口

高札場

会議室 1,2

地域の方や団体の会合などに使用できます。(有料・要予約)

郷土資料展示室

東海道五十三次や藤沢宿などに関する様々な資料を展示します。

男性用トイレ

女性用トイレ

みんなのトイレ



火打ち
火を付けるための道具。
男性の装身具として帯に
挟むための根付けがつい
ている。

箱枕(はこまくら)
引出に貴重品を保管していた。

弁当箱(2種)
左>帯に挟める
右>お箸付・仕切付き

おぐりはんかん
小栗判官

藤沢には小栗判官・照手姫の
伝説があります。

てるてひめ
照手姫